

コロナウィルス対策に向けたオンライン授業実施に関する情報等

- 4月以降の授業実施に際して、授業のオンライン化の可否や本学環境での実施可能性がどの程度あるかを他大学事例とあわせて簡単にまとめてみた（IS科 井垣）
- なお、下記法令や事例等についてはこの文書作成時に調査した最新のものであることをできる限り確認したものであるが、今後変更が行われたり、他のより新しい資料がある可能性がある。
- 本文書は下記URLにおいて、常に最新のものが公開されている。
 - https://github.com/igaki/online_class

授業のオンライン化の目的

- 外出によるウィルス感染のリスク低減
- 感染者が出た際の教育・学習機会の提供
 - 教員・学生ともに症状が軽い場合は授業の実施・受講が可能になる
- 通勤・通学などにもなうラッシュ時間の回避
 - 午前授業のみオンライン化などでも通学ラッシュのピークを緩和する効果が期待できる

実施に際して留意する必要があること

- オンライン授業（メディア授業）の取得単位数が124単位中60単位を超えないこと
- 授業実施に際して設問解答等による指導が合わせて行われるものであり、学生の意見の交換の機会が確保されていること
- 授業時間を従来どおり確保すること
- 本学の環境では、Microsoft Teams及びGoogle Classroomで実施が可能である
 - 教材の作成（ビデオ教材含む）・配布
 - 意見交換のためのチャット・掲示板機能
 - 課題の提示・提出管理機能

想定される課題

- ノートPC、インターネット環境等について不備がある学生をどうするか
 - 自習室、演習室開放
 - オンライン・オフライン授業の併用。授業に来る学生数が削減されるだけでも効果がある
- オフライン授業における感染の回避をどうするか
 - 学生間の距離など
- 授業への参加意欲の低減を招かないか
 - こまめな課題の実施、答え合わせにより受講姿勢の改善が見込めないか
- 休講・出欠の定義
 - レポート課題の提出をもって出席として扱うことが望ましい
- 授業責任時間のカウント法
 - 学生とのコミュニケーションが必要になるため、従来どおりが望ましい
- シラバス
 - 遅くとも初回授業で進め方や到達目標、評価基準についての明確な説明が必要

関連資料

本学で利用可能な環境

Microsoft Education

- <https://www.microsoft.com/ja-jp/education/products/teams>
- Microsoft Teams, Sway
- 講義ビデオ, 資料の作成と共有
- 授業ごとのオンラインチャット (Zoomなどとも連携可能)
- 課題の作成, 提出管理

Google Classroom

- <https://www.ipc.miyakyo-u.ac.jp/nenpo/no.23pdf/12.pdf>
- youtubeへの講義ビデオの投稿
- Google Classroomでの課題の作成, 提出管理
- ストリーム(Classroom内の機能)を利用した掲示板

法令等

- https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/043/siryo/1409011.htm
- https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/043/siryo/_icsFiles/afieldfile/2018/09/10/1409011_6.pdf
 - 大学における多様なメディアを高度に利用した授業について

毎回の授業の実施に当たって設問解答等による指導を併せて行うものであって、かつ、当該授業に関する学生の意見の交換の機会が確保されているもので、大学において、面接授業に相当する教育効果を有すると認めたものを遠隔授業として位置づけることとした

ここで必要とされる指導については、設問解答、添削指導、質疑応答のほか、課題提出及びこれに対する助言を電子メールやファックス、郵送等により行うこと、教員が直接対面で指導を行うことなどが考えられること。

1 単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とすること（第21条第2項）

講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位とすること（同第1号）

遠隔授業は、他大学との間で単位互換として行われる場合が少なくないことから、単位互換の単位数の上限の拡大に伴い、遠隔授業により修得することができる単位数の上限について、60単位を超えない範囲内としたこと。（改正後の第32条第4項関係）

なお、各大学において、124単位を超える単位数を卒業の要件としている場合は、大学設置基準第25条第1項の授業によって64単位以上の修得がなされていれば、遠隔授業によって修得する単位数については、60単位を超えることができるものであること。

事例

立命館大学

- <http://www.ritsumeai.ac.jp/news/detail/?id=1679>

4月5日(日)から5月2日(土)は感染拡大防止期間とし、授業は教室では行わず、WEBを活用した形態に切り替えて行います。

東京大学

- <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/president/COVID-19-message.html>

対面での講義は最小限とし、オンライン化を奨励し推進する

- <https://this.kiji.is/613353549895828577>

オンライン授業の実施に際し、学生にはカメラとマイクを搭載したパソコンまたはタブレット端末の用意と、自宅のインターネット環境の整備を要請。下宿先に引っ越したばかりで用意ができない学生には学内の端末を使用させる可能性もあると説明した。加えて「情報基盤センター学習管理システム ITC-LMS」の利用法の熟読と、事前アクセスを求めている。

名古屋商科大学

- <https://www.nucba.ac.jp/nisshin/news/entry-18871.html>
- <https://docs.google.com/document/d/1cB8npCmNNzrpF9A6oODAeSknCwt4t-aIJByaj9mvr00/edit#>

新学期の教室授業を全てオンラインに切り替えることにいたしました。

新学期の教室授業については学部・大学院ともにオンラインでの「双方向ライブ形式」で開始する事が決定しました。

自宅および下宿など発言可能な静かな場所から参加してください（外出先不可）

入学時に大学から配布されたノートPCを利用してください

常にビデオオンの状態で参加してください（OFFの場合は欠席となります）

配信映像の録画/録音/撮影は固く禁じます

名古屋大学

- <http://www.nagoya-u.ac.jp/academics/reminder/2020guidance/index.html>

4月17日(金)～30日(木)は、授業の隔週実施やNUCTの活用により、登校する学生を減らすとともに、受講者数に応じて大きな講義室に変更する等の措置を講じた上で、「感染防止の考え方」に基づき授業等を実施する。

授業は、毎週実施する授業、隔週実施する授業、4月中は実施しない授業に分類し、各授業科目がいずれになるかは、「履修ガイダンス」又は「学生への授業実施のためのガイダンス」等で案内する。隔週実施する授業については、4月17日～23日は学生番号9桁の末尾が奇数の学生、4月24日～30日は偶数の学生が登校するものとする。

海外大学

- <http://reg.siit.tu.ac.th/registrar/home.asp>

(1) An online learning/studying system via Google Classroom for all SIIT lecture courses is being prepared. All lecturers will be able to use the system from Monday 23rd March 2020.

(2) From Monday 16th March 2020, body-temperature screening will be performed at the entrances of the SIIT Main Building (Rangsit) and Sirindhralai Building (Bangkadi).

(3) All SIIT students are advised to follow SIIT official announcements closely.

- <https://www.technologyreview.jp/nl/harvard-tells-students-not-to-return-from-spring-break/>

ハーバード大学は3月23日までに講義をオンラインへ切り替える計画だ。同大学では3月14日から22日までが春休みだが、休み明け後も大学には戻らないよう学生に求めている

- <https://www.businessinsider.jp/post-208890>

「今（3月4日）では、各省や市レベルの教育委員会がそれぞれのプラットフォームで、授業の映像配信かLive配信をしています。加えて、中高など受験へのプレッシャーが多い学校や学年では、DingTalkも使ってオンライン授業のグループレッスンをやっている場合もあります」（宋さん）